

京極高次、

「鯖街道」起点の

礎を築く



京極高次肖像
(丸亀市資料館蔵)

を伸ばし、文禄4(1595)年に秀吉から大津6万石を与えられました。

秀吉の没後、関ヶ原の戦いでは東軍(徳川家康)方に付き、大津城で籠城。その功績が家康に認められて若狭8万5千石を拝領しました。後に加増された小浜藩領約11万石は、江戸時代の小浜藩領の基本的な石高として受け継がれています。

高次が若狭を拝領したのは慶長5(1600)年、その翌年からは小浜城の建設を始めます。このとき、城と同時に城下町の整備を行っており、小浜の魚市場もこのときに整備されています。

高次は慶長14(1609)年に亡くなり、家督は子忠高が継ぎますが、寛永11(1634)年に出雲松江への転封を命じられます。その後、若狭には酒井家が入りました。藩主が替わっても市場は魚商売で賑わい、江戸時代を通じて京都へと海産物を供給し続けます。そして現代でも、鯖をはじめとする若狭の魚は京都で重宝されています。

関連史料・ゆかりの地 (小浜市今宮区)

場を整備した京極高次は、「鯖街道」の礎を作ったともいえるのです。

上・下市場町は近代にもその機能を維持し、戦後もしばらくは商店が並んでいたといえます。ところが1980年代に小浜新港(川崎地区)の開発が完了すると、多くの商店は新港へと移転していきました。今や市場の面影はほとんどありませんが、地区の中心に残る市蛭子神社が、市場の守り神としてその名残を伝えていきます。

【住所】小浜市小浜今宮(JR小浜駅より徒歩約10分)



戦前の今宮区(井田家古写真)

現在の今宮区と市蛭子神社



平 成27年に日本遺産に認定された「鯖街道」。その起点が、小浜市広峰にある「いづみ町商店街」です。名前にある「いづみ町」(和泉町)とは江戸時代の町名で、現在の商店街がその範囲に当たります。ところが和泉町の北側、ちょうど小浜市今宮の辺りに「上市場」「下市場」という町名があったことは意外と知られていません。

実はこの上市場・下市場には、江戸時代を通じて魚市場が置かれていました。市場での出来事などを記録した『市場仲買文書』(個人蔵)に、この市場は、先の京極高次さまが

一国一城のお城を建てるとき、上下市場町や突抜町はもともと菅原や沼だったところを埋め立てて屋敷地にした」という記録が残っています。もともと低湿な土地であったところを開発し、埋め立てた土地には残らず町屋が建ち、市場がつくれたのです。

ここで登場する京極高次は初代小浜藩主となった人物で、「浅井三姉妹」の次女、初(常高院)の夫としても有名です。もともと近江北部を拠点とした高次は織田信長や豊臣秀吉に仕えながら徐々に勢力